

富里市教育委員会点検及び評価

(令和5年3月末時点)

<目 次>

1. 教育委員会の点検及び評価について	1
2. 令和4年度富里市教育委員の活動状況	2
3. 令和4年度とみさと教育プランに基づく令和4年度事業目標と評価 概 要	3
(1) 学校教育の充実	4
(2) 生涯学習の推進	27
(3) 文化・スポーツの振興	34
4. 講 評	43

1. 教育委員会の点検及び評価について

【目 的】

教育委員会は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性が高いものと考えられます。また、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成20年4月から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

【富里市教育委員会の点検及び評価について】

富里市においては、教育行政の基本的目標として策定している「とみさと教育プラン」を基準として、点検・評価を実施します。

この点検・評価については、毎年度末時点で点検及び評価を実施し、その次の年度の9月議会へ提出するとともに、ホームページへ掲載するなど公表します。

なお、実施方法等については、随時見直しを行っていく予定としております。

2. 令和4年度富里市教育委員会委員の活動状況

(1) 会議関係

【定例・臨時会議】

月		4(臨)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2(臨)	2	3	合計
内容	専決	0	2	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	7
	議案	2	4	6	8	1	3	5	2	0	0	0	0	0	6	37
	協議	0	5	2	1	2	4	2	0	0	0	0	0	4	0	20
	報告	3	5	2	5	1	2	5	3	2	5	2	1	3	10	49

(2) その他の主な活動

- 市内小・中学校入学式
- 市内小・中学校卒業式
- 学校教育研究会(4月13日)
- 印旛地区教育委員会連絡協議会定期総会(4月19日)
- 印旛郡市民体育大会巡回応援(7月10日)
- とみさとスポーツ健康フェスタ(10月10日)
- 千葉ジェッツホームゲーム観戦(10月22日)
- 生涯学習・家庭教育講演会(11月9日)
- 富里市学校教育研究会公開研究会(11月17日)
- 富里市英語スピーチコンテストパフォーマンス発表会(12月4日)
- 令和5年二十歳を祝う会(1月8日)
- 千葉県市町村教育委員会連絡協議会研修会(1月27日)

3. 令和4年度とみさと教育プランに基づく事業目標と評価

【概 要】

令和4年度とみさと教育プランに基づく令和5年3月末時点の評価について、
「順調に達成したもの(達成度の評価:A)」は、全78項目中40項目(51.3%)、「概ね順調に達成したものの課題があるもの(達成度の評価:B)」は、全78項目中31項目(39.7%)、「達成できなかったが一定の成果を得られたもの(達成度の評価:C)」は、全78項目中7項目(9.0%)と、合計で全78項目中71項目(91.0%)の目標が順調に達成した。

重点項目ごとの達成度の評価は次のとおりである。

重点項目	項目数	順調に達成したもの(A)	概ね順調に達成したものの課題があるもの(B)	達成できなかったが一定の成果を得られたもの(C)	達成できずに成果に乏しいもの(D)
全 体	78	40 (51.3%)	31 (39.7%)	7 (9.0%)	0 (ー)
学校教育の充実	46	21 (45.7%)	19 (41.3%)	6 (13.0%)	0 (ー)
生涯学習の推進	15	8 (53.3%)	7 (46.7%)	0 (0.0%)	0 (ー)
文化・スポーツの振興	17	11 (64.7%)	5 (29.4%)	1 (5.9%)	0 (ー)

新型コロナウイルス感染症が拡大して約3年の月日が経ち、コロナ禍における学校教育や生涯学習活動等の方法を検討し、工夫しながら実施したことにより、多くの項目において基本目標達成のための取組が順調又は概ね順調に進行した。

新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類から5類に引き下げられ、様々な活動が再開される中、今後も限りある予算で最大の効果が得られるような検討、工夫もますます求められる。プラン策定時には、目標を達成するための方策について、あらゆる手段を考察した上で、目標達成に向けて、引き続き各課で取り組んでいく。

1	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		確かな学力を育てる教育の推進				
事業名		学力向上に向けた取組			開始年度	平成23年度
事業内容		学力の下支えとなる語彙力、計算能力の向上のための取組を市内小中学校全校で年間を通して実施する。 ・視写 ・暗唱 ・100マス計算				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校・視写・暗唱・100マス計算		・150字～350字/10分 ・年間20編・2分以内		10%		C
中学校・視写・暗唱・100マス計算		・400字/10分 ・年間20編・1分20秒以内		10%		
(達成 度)						
各校へ視写、暗唱、100マス計算の問題の配布及び練習を依頼したが、十分に成果は表れていない。						
(課題・改善点)						
とみの国検定の内容を刷新し、千葉県標準学力検査の結果が令和6年度までに県平均に追いつくことを目標に各校で暗唱、視写、計算練習に取り組んでいく。取り組む内容については、サーバー上にデータをあげ、各学校で活用しやすい体制を整えていく。						

2	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		確かな学力を育てる教育の推進				
事業名		研究指定による指導方法の改善			開始年度	平成24年度
事業内容		研究指定を受けた学校は、当該教育課題に関する研究実践を推進し、常に授業の工夫・改善を中心とした研究の推進及び教職員の研修に尽力する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
公開研究会の実施		3校		3校		B
研究成果資料の市内配付		10校		10校		
(達成 度)						
令和4年11月17日（木）に、根木名小学校、七栄小学校、富里南中学校で、授業研究会を開催した。						
(課題・改善点)						
公開する学校については、各研究部が協力をして公開研究会の運営がスムーズに行えるようにしている。富里市学校教育研究会の公開校については、当研究会の総会で無理なく輪番で回せるように決定している。						

3	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教育内容・方法の改善充実				
事業名		教務主任研修の実施			開始年度	令和3年度
事業内容		学力向上のための市全体の取組についての伝達講習を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校		4回		4回		A
中学校		4回		4回		
(達成度)						
年間4回実施することができた。全国学力・学習状況調査について、今後の結果分析や対策を行う際の情報交換を行う貴重な場となった。						
(課題・改善点)						
学力向上推進の中核である教務主任に向けて、より具体的な指導法を伝達できるように努める。						

4	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		基礎や基本となる学習への取組				
事業名		「とみの国」検定の実施（漢字・計算）			開始年度	平成22年度
事業内容		基礎学力の定着と学習習慣の定着を目的に、漢字検定と計算を中心とした算数検定をそれぞれ年3回実施し、各学年問題に合格した児童・生徒に合格証を授与し達成感を与える。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校合格率		90%		88%		B
中学校合格率		90%		84%		
(達成 度)						
年間3回の検定を実施した。合格率は令和4年度目標を若干下回ったが、令和3年度と比較すると、漢字、計算共に伸びが見られ、一定の成果があった。						
(課題・改善点)						
令和5年度は学力の基盤を固めることを目的に、検定内容を視写、暗唱、100マス計算に変更して実施する。						

5	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		基礎や基本となる学習の取組				
事業名		「富里市きょうざん塾」の実施			開始年度	平成23年度
事業内容		令和版てらこや「富里市きょうざん塾」を夏季休業中に小学校2年生～6年生を対象に5日間実施する。ボランティア団体「きょうざん会」を中心にボランティア講師、高校生ボランティアが行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
わからないことがわかるようになったと答えた児童の割合		90%以上		未実施		C
(達成度)						
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止として、実施しなかった。きょうざん会役員と令和5年度の開催に向けて、協議をしている。						
(課題・改善点)						
令和5年度のきょうざん塾は、学校が主体となり、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）、保護者及び地域に協力をいただきながら、開催予定である。各小学校で実施することで、多くの児童の参加が見込めたり、地域の方々が児童の実態を把握できたりする等、様々なメリットがあることが予想される。						

6	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		外国語教育の充実				
事業名		ALT（外国語指導助手）・JTE（外国語指導補助員）の配置			開始年度	昭和60年度
事業内容		小・中学校にALTやJTEを配置し、英語のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
外国語指導補助員会議実施回数		年10回		2回		C
ALTの授業参観回数		年2回実施		1回		
(達成度)						
ALT3名とJTE5名を市内小・中学校に配置し、英語科授業や外国語活動において、担任や教科指導担当と連携しながら、児童生徒の主体的な学びの充実に努めている。新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、外国語指導補助員会議を実施し、学習状況等の情報共有を図っている。ALTの授業参観は、学校、委託業者と連携を取り行っている。						
(課題・改善点)						
令和5年度よりALTの週当たり派遣回数が減った学校の授業で、どの程度の影響があるのかを確認し、児童生徒の主体的な学びの確保に努めなければならない。また、担当者会議の内容を校務支援システムで発信し、共通理解を図る必要がある。						

7	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		外国語教育の充実				
事業名		「英会話の日」推進事業の実施			開始年度	平成19年度
事業内容		小・中学校において英会話に親しむ活動を行い、外国人とのコミュニケーション活動や異文化に触れる活動を通して国際理解教育の推進を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
英会話の日の実施回数		各学校年間3回		平均2.5回		B
(達成 度)						
学校ごとに回数に差があったが、児童生徒がALTと対話をしたり異文化に触れる活動を通して、日々の授業で学んだことを活用する時間となっている。						
(課題・改善点)						
派遣できるALTの人数に限りがあるので、実施計画書をもとに人数調整を図り、できるだけ多くのALTが派遣できるようにする。						

8	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ふるさと学習の推進				
事業名		教育課程全体を通じた「ふるさと学習」の推進			開始年度	平成21年度
事業内容		子供たちがふるさとである富里を理解し、地域への誇りと愛情を育んでいくために、「ふるさと学習」を発達の段階に応じて教育課程に位置付け、推進する。中学年では副読本を活用して、富里市に関する学習の充実を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校3・4年生でのふるさと学習の実施時数		3年70時間・4年58時間		各学校において、年間指導計画に沿って実施（100%）		A
(達成 度)						
学習指導要領では、小学校3・4年生において、自分たちの住んでいる身近な地域について学習することとなっている。各学校では、これらの地域の学習について適切な時間を年間指導計画に位置づけており、副読本「わたしたちの富里市」を活用して授業を展開している。						
(課題・改善点)						
本事業に関する取組をより広く伝えることが大切である。今後は、各校の様々な取組を紹介し合う場を設定するなど、情報共有を行えるようにしていく。						

9	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ふるさと学習の推進				
事業名		「ふるさと学習」に関する研修の実施			開始年度	平成21年度
事業内容		富里の歴史についての理解を深め、今後の指導に生かしていけるよう、夏季休業中に「ふるさと巡検」を実施する。研修会では、専門性の高い生涯学習課職員を講師として、子供たちへの指導に役立つ情報を提供し、指導者の育成を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
教職員を対象としたふるさと巡検の実施		希望者5名		希望者18名		B
(達成度)						
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の一環として実施しなかったが、関係情報を提供し、令和5年度の開催に向けて協議を進めた。						
(課題・改善点)						
実施することはできなかったが、参加の対象を広げたことにより、参加希望者を増やすことができた。						

10	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ふるさと学習の推進				
事業名		地域教材の配付と活用			開始年度	平成14年度
事業内容		小学校3・4年生の社会科学習で活用するための社会科副読本「わたしたちの富里市」を作成・配付する。この副読本を活用した授業を通して、地域への愛着の増進、故郷である富里の将来を担う人材の育成を目指す。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校3・4年生の社会科授業での活用		7校		7校		A
(達成度)						
各小学校に、社会科副読本「わたしたちの富里市」を配付している。活用状況については、小学校中学年において全ての小学校で活用されており、地域への愛着の増進を図っている。						
(課題・改善点)						
地域社会の状況や学習指導要領の内容を鑑み、社会科副読本の改訂・印刷製本を円滑に進めていく必要がある。						

11	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		富里市特別支援教育専門員巡回支援事業（巡回相談）の実施			開始年度	平成19年度
事業内容		特別支援教育の専門家チームによる巡回を市内全幼稚園・保育園・認定こども園（私立も含む）、市立小・中学校で年間2回（計画訪問）実施し、特別支援教育の推進を図る。要請による巡回がある場合には実施し、園や学校だけでなく家庭における支援の仕方についても助言し、個別支援の充実を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
訪問回数		42回		40回		A
要請による訪問回数		5回		3回		
(達成 度)						
計画訪問は、私立を含む市内幼稚園・保育園・こども園及び市立小・中学校で前期の訪問を計画通り実施している。個別に支援を必要とする児童生徒への支援の仕方について助言をすることができている。						
(課題・改善点)						
一部、巡回できていない園があるが、就学指導で必要なこと、子どものためになることを伝え、実施につなげていく。						

12	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		ライフサポートファイルの活用			開始年度	平成19年度
事業内容		特別な支援を要する児童・生徒の保護者にライフサポートファイルを配付し、各機関で受けた検査の結果や支援の状況を記録し、相談先や進学先で活用することにより、子供の状態を的確に把握し、迅速かつ適切な支援を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小・中学校の特別支援コーディネーター対象の研修回数		3回		2回		A
ライフサポートファイルについての伝達講習		10校		10校		
(達成度)						
幼小中の特別支援コーディネーター等を対象に、個別の指導計画、ライフサポートファイルの活用、また早期支援・指導の在り方等について、特別支援教育研修会の内容の充実を図ることができた。						
(課題・改善点)						
ライフサポートファイルについては周知しているが、将来にわたる活用方法の理解を深めるためにも研修や巡回訪問等で繰り返し周知していくと共に、ライフサポートファイルの活用を促進していく。						

13	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		個別指導補助員の配置			開始年度	平成18年度
事業内容		特別支援学級に在籍する子供や通常学級に在籍する特別な支援を要する子供に対してきめ細かな指導をするために、全ての小・中学校に個別指導補助員を配置する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
配置人数		15名		15名		A
(達成 度)						
個別指導補助員を全小・中学校に15名配置していることで、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な支援を要する、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学習面、生活面でのきめ細やかな支援を行うことができている。						
(課題・改善点)						
特別な支援を必要とする通常学級や特別支援学級の児童・生徒が増えている。より児童・生徒や学校、保護者のニーズに応えられる体制作りをするため、複数校に複数配置が必要である。引き続き、支援員を増やす必要がある。						

14	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		特別支援教育の推進				
事業名		発達相談の実施			開始年度	平成18年度
事業内容		学習上の困難さや生活上の課題を抱えた児童・生徒及び保護者、担任の悩みや心配を解消するために、月2回臨床発達心理士による相談業務を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
相談の実施回数		96回		96回		A
(達成 度)						
電話での相談、指導主事との相談を合わせると、年間で100回以上の相談実施があった。相談員は単に相談に乗るだけでなく、指導主事を通して学校と連携をとりながら包括的な支援に当たっている。						
(課題・改善点)						
発達相談の日程調整を行い、緊急性の高いものを優先させる等、相談者のニーズに応えるようにしていく。						

15	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		幼児教育の充実				
事業名		浩養幼稚園・浩養小学校を核とした幼小連携			開始年度	平成23年度
事業内容		運動会やバザー、避難訓練、秋祭りなど様々な行事を通して幼稚園児と小学校児童の交流を図る。小1 プログラムの解消や有効な幼小連携の在り方について研究する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
幼小連携の行事数		5回以上		5回		B
(達成度)						
合同運動会、防災訓練等共に行事を行う際には、幼稚園と小学校で密に連絡を取り合っている。その結果、幼稚園と小学校で充実した交流が行われ、園児が小学生の活動や生活に興味をもつきっかけとなっている。						
(課題・改善点)						
行事数はもちろん、日々の生活の中で、今後もより小学校と幼稚園で連絡を密に取り合い、研修の充実や交流に努めていく必要がある。						

16	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		学校図書館の活用				
事業名		学校図書館司書の配置による読書活動の推進			開始年度	平成17年度
事業内容		「富里市おすすめの本」を活用した読書活動を推進し、言語活動の充実を図るための基礎的な能力を養う。 学校図書館司書と各校の図書館担当教諭が連携し、図書室の環境整備を進める。 「図書利用アンケート」を実施し、その結果を授業に活用する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
一人あたりの貸出冊数		小学校60冊、中学校10冊		小学校62.2冊中学校6.2冊		B
図書利用アンケートの実施回数		年間2回		2回		
(達成度)						
学校図書館司書が中心となり、児童生徒にさまざまなジャンルの本を紹介し、読書活動を啓発している。中学校において、昨年度の同時期と比較し、貸出冊数の増加が見られる。						
(課題・改善点)						
中学校の貸出冊数が未達となったため、今後は中学生が読書に興味を示すことができるよう対応していく必要がある。						

17	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		地域一体のキャリア教育の推進				
事業名		中学生を対象とした「わくわくWorking！（富里市職場体験学習）」の充実			開始年度	平成18年度
事業内容		中学2年生が市内及び近隣市町の事業所において職場体験学習を行い、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てる。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
受け入れ可能事業所数 （1箇所あたり5人）		82箇所		未実施		B
(達成度)						
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止として、実施しなかった。代替として各校で事業所の方を招いての学習、インターネットを活用した調べ学習、オンラインでの学習などを実施した。						
(課題・改善点)						
令和5年度は、感染対策を踏まえ、職場体験が可能な事業所を少しでも増やすことができるよう関係機関と連携し働きかけていきたい。						

18	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		地域一体のキャリア教育の推進				
事業名		小学生を対象とした「ゆめ・仕事びったり体験（地域密着観察学習）」の実施			開始年度	平成21年度
事業内容		現地での職場見学及び体験を希望する学校の小学6年生が「わくわくWorking!」の登録事業所を活用して職場見学及び体験を行い、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や職業観を育てる。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
受け入れ可能事業所数 （1箇所あたり5人）		36箇所		未実施		B
(達成度)						
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止として、実施しなかった。代替として各校で事業所の方を招いての学習、インターネットを活用した調べ学習、オンラインでの学習などを実施した。						
(課題・改善点)						
令和5年度は、感染対策を踏まえ、職場体験が可能な事業所を少しでも増やすことができるよう関係機関と連携し働きかけていきたい。						

19	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教職員の資質の向上				
事業名		幼稚園教員の指導力向上研修			開始年度	平成19年度
事業内容		市内各幼稚園の様子を参観をし、活動内容や支援方法、家庭との連携等について助言を行う。 夏季の研修会において日々の実践につながる研修を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
研修回数		1回以上		1回		A
夏季研修会		1回		1回		
(達成度)						
夏季研修会において、個に寄り添った指導の充実についての研修会をもち、こども園・幼稚園の情報交換を行った。また、富里市特別支援教育研修会にも参加を促し、研修会へ参加してもらうことで小学校への円滑な引き継ぎに努めている。						
(課題・改善点)						
特別支援教育の研修会に、幼稚園・こども園にも声をかけ、連携を図っていく。夏季研修会での研修内容を園内で共有していき、より日々子どもたちへの関わりや指導に生かせるようにしていくためにも研修の充実を今後も図っていく。また、研修内容についても、実際に幼児に関わる教員が抱える問題点も考慮し、充実した研修になるように努める。						

20	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教職員の資質の向上・				
事業名		2・3年目の教員研修			開始年度	令和4年度
事業内容		2・3年目の全教員（若年層講師も含む）を対象に、各自のもつ教育的課題を追求する機会を与え、若年層教員の資質・指導力の向上を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
個別研修（授業展開）の回数		1回以上		8回		A
(達成度)						
2年目から5年目の教員（講師を含む）について月1回から2回程度授業参観を実施し、授業について指導主事によるフィードバックを行った。						
(課題・改善点)						
令和5年度から若年層研修として初任～5年目まで教員の授業を指導主事が参観しフィードバックする形式に変更して実施する。						

21	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		教職員の資質の向上				
事業名		教職員夏季研修会			開始年度	平成16年度
事業内容		市立小・中学校の教職員が、4講座のいずれかにおいて専門的な研修（希望制）を受けることで、実践的な指導力の向上を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
開催講座数		4 講座		未実施		C
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症予防のため、令和4年度は講師を招いての講座は実施しなかった。代替として、資料配布を行った講座もある。						
(課題・改善点)						
令和5年度は市教育研究会が中心となって各研究ごとに講師を依頼し実施する。						

22	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ICTを活用した学習の推進				
事業名		ICTに係る教員の指導力向上に向けた取組			開始年度	令和3年度
事業内容		市内小中学校教職員対象にICT利活用の研修会を実施することで、ICTを活用した授業力、児童生徒へのICT活用指導力の向上を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
ICT利活用研修の実施回数		年2回		2回		B
(達成度)						
授業で活用するSkyメニューの活用方法の研修会を実施したことで、ICTを活用した授業力の向上や児童生徒へのICT活用の指導方法の伝達を図ることができた。						
(課題・改善点)						
夏季に実施する情報教育研修会の研修内容を充実させ、各校で活かせる情報等が研修会で扱うようにしていかなければならない。						

23	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(1) 確かな学力を育む				
		ICTを活用した学習の推進				
事業名		情報機器環境整備の充実に向けた取組			開始年度	令和3年度
事業内容		情報機器を効果的に活用した授業展開ができるよう、各学校の情報機器の環境整備に向けた取組を継続する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
大型モニター整備率（普通教室・特別教室）		100%		78%		B
(達成度)						
普通教室については、整備が完了した。特別教室については一部進んでいないところがある。						
(課題・改善点)						
各学校の特別教室における必要箇所を確認し、必要箇所における整備率が100%になるようにしていく。						

24	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		豊かな心の育成				
事業名		道徳教育の充実			開始年度	平成23年度
事業内容		小・中学校において道徳教育推進教師を中心に、創意工夫した授業を展開する。 また、授業を地域に公開し、地域・家庭と連携し道徳教育の充実を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
道徳の時間についての指導法研修の実施		年間1回		1回		B
道徳の授業公開の回数		各校年間1回		1回		
(達成度)						
感染症拡大防止の観点から教育関係講座で道徳指導法の研修を実施することができなかったが、校内で研修を実施した。						
(課題・改善点)						
年間35時間の時数を確保し、千葉県における道徳教育の主題である「『いのち』のつながりと輝き」について深く考えさせる題材や資料を工夫していく。また、千葉県教育委員会作成の映像教材を活用等により、児童生徒の実態に合った学習が展開できるように各校へ働きかけていく。						

25	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		健やかな体の育成				
事業名		体力向上に向けた取組			開始年度	平成25年度
事業内容		体力調査を基に市内の児童・生徒の体力分析を行い、市体力向上研究部で協議し、より効果的な体力向上の取組を検討する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
体力向上研修会開催回数		1 回		1 回		B
いきいきちばっ子「遊・友スポーツランキングちば」の種目の活用		10校		7 校		
(達成 度)						
5月に体力向上研修会を開催し、本市児童生徒の体力向上に向けた各校の取組について、情報交換を行った。小学校7校については、「遊・友スポーツランキングちば」のチャレンジスピード2に取組、体力の向上を図っている。						
(課題・改善点)						
遊・友スポーツランキングちばの取り組みがやや不十分であった。体力向上の施策について再検討する必要がある。						

26	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		長欠者調査及び長欠担当者会議による早期対応			開始年度	平成19年度
事業内容		長欠担当者会議を年間2回開催し、長欠児童・生徒への対応について研修し、早期対応に努める。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校不登校率（30日以上）		1.2%以下(過去3年間の市平均)		2.3%		B
中学校不登校率（30日以上）		4.5%以下(過去3年間の市平均)		8%		
(達成 度)						
令和4年度は、長欠担当者会議年間2回の開催予定のうち、1回を新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、書面開催とした。県の不登校対策支援チームが作成した資料を配付し、各校において校内研修を実施した。						
(課題・改善点)						
令和4年12月に生徒指導提要が改訂され、不登校児童生徒への支援において、『「学校に登校する」という結果のみを目標としない』との文言が追加された。この改訂により、目標値を下回る実績となったが、不登校児童生徒が、自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指す校内体制を構築していく。						

27	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		適応指導教室（ふれあいセンター）			開始年度	平成7年度
事業内容		ふれあいセンター（適応指導教室）で不登校の児童・生徒の居場所づくりを行うとともに、学校復帰に向けての取組を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
ふれあいセンターの出席率		50%		42%		B
月一度以上学校に登校できた児童生徒の状況		70%		48%		
(達成度)						
長欠児童生徒の状況については、月1回の学校からのヒアリングをして把握している。児童生徒の状況に応じて、ふれあいセンターにつなげるように働きかけている。						
(課題・改善点)						
数値目標は達成することはできなかったが、長欠児童生徒への支援の方向性が変わり、「必ずしも学校に登校するだけを目指としない。」とする通知が国から出された。長欠児童生徒の居場所として、大きな役割を果たしている。						

28	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		いじめ問題の実態把握と取組			開始年度	平成24年度
事業内容		いじめの実態調査を行うとともに、未然防止のための教育相談や教員の研修を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
いじめの解消率		100%		97.2%		A
いじめに関する研修の実施回数		3回		3回		
(達成 度)						
各学校における、いじめの定義への解釈が定着してきた。研修では、いじめ認知後の早期対応・早期発見による解消率に努めることを確認した。また同時に未然防止策の重要性について共通理解を図っている。						
(課題・改善点)						
毎学期実施しているいじめ状況調査において、いじめ認知の在り方を再度共通理解していく必要がある。また、いじめについては学校体制で取り組み、市内全ての児童生徒が安全・安心に学校へ登校できるように、いじめに対する職員の意識を高めていく必要がある。						

29	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		不登校やいじめ等への対応				
事業名		教育相談の実施			開始年度	平成18年度
事業内容		課題を抱える保護者や児童・生徒に早期に対応するため教育相談員を配置し、教育相談活動を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
家庭訪問数		200件		300件		A
相談件数		750件		912件		
(達成度)						
2名の教育相談員が週3日の勤務で家庭訪問や教育相談活動を実施。各学校のニーズに応じた形で実施した。						
(課題・改善点)						
教育相談のニーズが年々増加しており、内容也多岐にわたっている。教育相談員のみならず、各学校の教育相談体制を強化させていく必要がある。						

30	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		情報モラル教育の推進				
事業名		情報モラル教育の推進			開始年度	平成21年度
事業内容		教員向けの情報モラル教育・授業プログラムを提供し、子供たちが携帯電話等を介したトラブルに巻き込まれないように、子供たちやその保護者を対象とした「ケータイ・スマホ出前授業」を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
情報モラル教育に関する授業実施校（外部講師も含む）		市内全小学校（7校）		4校		B
情報モラル教育・授業プログラム提供		市内全小中学校（10校）		10校		
(達成度)						
「ケータイ・スマホ出前授業」を商工観光課、富里市消費生活センターと連携し、希望する市内小学校で実施した。「家庭でのルールづくり」、「スマートフォンの利便性と危険性」など要望に応じた内容で、ケータイ・スマホの安全で適切な使用法について児童や保護者に啓蒙を図った。情報モラル教育・授業プログラムについては、随時資料等を配付して、情報提供を行っている。						
(課題・改善点)						
情報モラル教育に関しては最新の情報を基にして、出前授業等を実施し、子どもたちのルールや自分自身を守る意識の向上を図っていかなければならない。						

31	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		ジョイント・スクール推進事業の取組				
事業名		ジョイント・スクール推進事業の充実			開始年度	平成26年度
事業内容		既存の3つの中学校区をそれぞれ1つの学園として、現行の6・3制を基盤に、義務教育9年間を見通した教育を行う。また、各学園において、9年間の児童・生徒の学びと成長、発達を考慮し、地域の特色を生かした小・中連携、交流活動を積極的に推進する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
意識調査「学校が楽しい」回答率		65%		71%		B
意識調査「ジョイントスクールの取組が楽しい」		65%		71%		
(達成 度)						
3つの中学校区において、中学校に進級する子どもたちがスムーズに移行できるよう小学校6年生と中学校1年生の交流を中心に行い、中1ギャップをなくすような取組を計画し実行した。						
(課題・改善点)						
義務教育9年間を見通した教育を行うに当たり、学校と地域の更なる連携が必要となる。今後は、目標値をより上回ることができるよう、内容の充実を図っていく。						

32	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		次世代の子ども達の健康を推進するための対応				
事業名		小児生活習慣病検診の実施			開始年度	平成8年度
事業内容		中学2年生を対象に、総コレステロール・HDLコレステロール・中性脂肪等の血中脂質の検査、血色素・ヘマトクリット・血清鉄等の貧血検査の結果を基に食生活及び生活習慣の改善を指導し、小児生活習慣病の予防に努める。また、中学3年生のうち昨年度未実施者・要指導判定者も同様に検査を行い、再度生活習慣の改善を指導し、健康生活の促進に努める。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
受診率		100%		96%		B
要医療者割合		5,0%以下		7.9%		
(達成 度)						
要医療者の割合は、印旛郡市他市町の平均2.0%と比べるとかなり高い。要指導者・要管理者の割合も合計すると、生徒全体の72.2%となる。放置すれば、生活習慣病に移行してしまうことから、生活習慣病検診の必要性及び生活習慣病予防のための保健指導を推進し、生徒の意識を高めていくことが必要である。						
(課題・改善点)						
生徒の意識を高められるよう、保護者を含めて、啓発活動を充実させていく必要がある。						

33	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		安全な食材選びと衛生管理の徹底			開始年度	昭和48年度
事業内容		学校給食に使用する食材について、納品時の検収の徹底に努め、食材や調理器具等の細菌検査を定期的実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
検便細菌検査の実施回数		年24回（月2回）		年24回（月2回）		A
食品細菌検査の実施回数		年 2 回		年 2 回		
(達 成 度)						
学校給食衛生管理基準に基づき、給食従事者の衛生管理では、日常的な健康管理とともに、定期的な細菌検査等を実施し、その状態によっては、代替職員等による対策を講じた。 また、食品に関しては、検収時の点検項目すべてを記録し、食肉・魚介・野菜類等で分類して保管するなど相互汚染を防ぐとともに、調理器具等の拭き取り、細菌検査を実施し、品質や衛生管理の徹底を図った。						
(課題・改善点)						
検査の実施回数は、計画に沿って実施しており、衛生管理や食材納品時の検収については、安全安心な給食提供のため、引き続き細心の注意をはらい、徹底して行っていく。						

34	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		地場産品の活用の拡大			開始年度	昭和48年度
事業内容		豊かな農産物に恵まれている富里市の利点を生かし、新鮮で生産者の顔の見える地場産品を給食へ積極的に活用した。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
学校給食用食材料調査（県）における市内産食材の使用割合（重量ベース）		55%		16.6%		C
学校給食用食材料調査（県）における市内産食材の使用割合（金額ベース）		55%		25.1%		
(達成度)						
主食の一つである米飯については、全て富里産コシヒカリを使用しており、その他の生鮮野菜や豚肉なども地元産を積極的に活用した。						
(課題・改善点)						
安全・安心と購入経費のバランスが適切になるよう配慮しながら、米以外の食材についても地場産品の一層の活用を図る。						

35	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		食に関する指導の推進			開始年度	昭和48年度
事業内容		児童・生徒を対象に朝ごはんの重要性、食事のマナー、好き嫌いをなくすことや生活習慣病予防などをテーマに、発達段階や学習内容を考慮して系統的な食育の授業を行うほか、食を通じて地域を理解することや食文化の継承など食に関する指導を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
食育指導等の回数		84回（見込み）		83回		A
給食だより等の配布		25回		26回		
(達成 度)						
「富里市教育委員会食育推進プラン」に基づき食育を行っており、栄養士の授業は概ね好評である。食育授業後はクラスに留まり、感染症対策に留意して喫食前まで給食時指導を行った。また、既存の広報媒体（給食だより・献立表）を用いて、食に対する意識を高めるよう指導した。						
(課題・改善点)						
栄養士が作成した食育DVDを使用する授業は行っているが、今後はタブレット端末の利用によるデジタル教材の活用など、より効率的な手法でさらに食育の浸透を図っていく。						

36	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(2) 健全な心と体を育む				
		安全においしく楽しむ食育の推進				
事業名		食体験を豊かにする献立の充実			開始年度	昭和48年度
事業内容		給食献立に、行事食や伝統食、季節の食材を使用するメニューを積極的に取り入れることで、食文化の継承や、豊かな食体験の場としての給食時間を提供する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
行事食等の提供回数		年間20回		24回		A
(達成 度)						
学校給食法では、我が国の各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めることが、目標の一つとなっている。						
月毎に定期に行事食・伝統食等を提供することで、食生活が食に係る人々の様々な活動のうえに成り立つことへの理解につながった。						
(課題・改善点)						
食文化には、食材・調理・食べ方等が含まれており、地元の食と比較し、どのような違いや特徴があるかなど、食を通じて更に他地域の文化や歴史への興味や理解を持つことに繋げたい。						

37	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		学校開放や地域公開				
事業名		学校での地域公開授業の実施			開始年度	令和2年度
事業内容		保護者や地域の方々に授業や学校行事を積極的に公開し、社会に開かれた教育課程を編成することで、学校だけでなく地域全体で子どもを育てていく。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
地域や保護者の方々に授業や学校行事を3回以上公開した学校数		10校		0校		C
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響で例年よりも地域や保護者に公開をする機会が少なくなっている。各校工夫しながらオンラインでの公開も含め進めた。						
(課題・改善点)						
新型コロナウイルス感染症の影響は、ほとんどなくなってきたので、学期に1回以上地域や保護者に学校公開できるようにしていく。						

38	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		学校開放や地域公開				
事業名		学校支援ボランティア活用の推進			開始年度	平成20年度
事業内容		学校の教育活動や環境整備について、保護者及び地域の人材がボランティアとして活動することを支援する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
保護者及び地域の人材を活用した活動回数		各校年間1回以上		10校		B
(達成度)						
除草作業等の環境整備を中心に活動を行っている。より効果的に且つ継続的な活動になるよう市のホームページに各校で希望しているボランティア人材の確保を進めた。						
(課題・改善点)						
環境整備が活動の中心になっているので、他の活動でも効果的に且つ継続的な活動ができるように引き続き、人材の確保を進めなければならない。						

39	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(3) 地域に開かれた信頼される学校づくり				
		開かれた学校づくり				
事業名		学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の創設			開始年度	令和4年度
事業内容		教育委員会及び学校の校長の権限と責任の下、学校に在籍する児童、生徒の保護者等の地域住民の学校運営への参画、支援及び協力を促進することにより、学校運営の改善及び児童、生徒の健全育成に取り組む。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
学校運営協議会の設置		市内9協議会		9協議会 （日吉台小と富里北中は合同）		A
学校運営協議会開催回数		各学校運営協議会において年3回		協議会ごとに回数は異なるが、年2回～4回		
(達成 度)						
各学校での会議開催回数について予定通り開催できている。学校運営協議会委員の意見や協力を得ることにより、各学校の教育活動に進展が見られた。学校と地域のパイプ役、地域情報の収集、地域団体との連携など、目に見えない形での支援や協力が地域ぐるみの教育を充実させている。						
(課題・改善点)						
各学校運営協議会それぞれの地域の実情に応じ、学校運営への参画や改善点等を、今後も引き続き、検討を継続しなければならない。						

40	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		（３）地域に開かれた信頼される学校づくり				
		開かれた学校づくり				
事業名		学校評価の実施と情報提供			開始年度	平成15年度
事業内容		地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めていくことを目的として、各幼稚園、小・中学校において学校評価を実施し、学校・園の改善に努める。				
指 標		令和４年度目標		令和４年度実績（実施率）		総合評価
自己評価の実施と公表		２園、10校		２園、10校		A
学校関係者評価の実施と公表		２園、10校		２園、10校		
(達成 度)						
自己評価、関係者評価が年１回の園・学校（２園・７校）については今後実施予定。年２回の学校は前期分のみ実施済み。						
(課題・改善点)						
学校評価の結果を分析し、地域に開かれ、信頼される学校になるために必要な改善点等を確認し、各校で実施していかなければならない。						

41	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		安全教育の推進				
事業名		防犯・不審者情報の適宜・適切な配信			開始年度	平成19年度
事業内容		不審者情報等を速やかに小・中学校、内容により、幼稚園・高校等へ配信する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
「まちcomi」システムの加入世帯数		100%		97%		A
(達成 度)						
年度初めに「まちcomi」システムの利用を各学校に呼びかけているため、加入世帯が高い割合になっている。						
(課題・改善点)						
各学校へ「まちcomi」の活用方法を指導していくとともに、保護者への加入促進を引き続き行っていく。						

42	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		安全教育の推進				
事業名		防災及び交通安全教育の充実			開始年度	—
事業内容		地震や風水害等の災害に対する意識を高めるため、避難訓練等の防災教育の充実を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
防災マニュアルの作成		市立幼稚園、小・中学校で作成		全校・園で作成済み		A
避難訓練の実施		市立幼稚園、小・中学校で1回以上実施		市立幼稚園、小・中学校で1回以上実施済		
(達成度)						
防災マニュアルを作成し、市立幼稚園、小・中学校で防災訓練を実施した。						
(課題・改善点)						
防災マニュアルについては、周辺環境や時代の変化に合わせて、毎年見直しをする必要がある。また、避難訓練については、各学校の実態に即した計画・実施をしていく必要がある。						

43	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	学校教育課
重点項目	(4) 安全・安心な教育環境の整備					
	安全教育の推進					
事業名	学校における防犯教室の実施				開始年度	
事業内容	防犯意識を高めるため、市立幼稚園、小学校において、防犯技能を身につけるための防犯教室を開催する。					
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
防犯教室の実施（不審者対応避難訓練等も含む）		市立幼稚園、小・中学校で1回実施		2園6校（66％）		B
(達成度)						
市立幼稚園2園、小学校3校、中学校3校で実施した。残りの小学校4校では、コロナで実施することができなかった。						
(課題・改善点)						
10月以降に実施する学校が多い。なるべく早い時期での防犯教室や防犯訓練の実施を各園・学校へ依頼していく必要がある。						

44	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	教育総務課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		学校施設の整備				
事業名		学校施設の既存不適格対応			開始年度	令和2年度
事業内容		法令改正等により、既存不適格となっている小中学校の防火シャッター危害防止装置及び小荷物専用昇降機防火区画の設置について、実施設計及び改修工事を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
中学校施設の既存不適格改修工事に係る実施設計業務の実施		100%		100%		A
(達成度)						
中学校2校の防火シャッター危害防止装置及び小荷物専用昇降機防火区画設置に係る既存不適格改修工事の実実施設計については、9月末に実施設計業務が完了した。						
改修工事については、令和5年度の学校施設環境改善交付金対象事業として実施する予定であったが、令和4年度に前倒ししたことにより、R5.2.16付けで交付決定を受け、令和4年度繰越事業として令和5年度に既存不適格改修工事を実施する。						
(課題・改善点)						
令和5年度に当該改修工事を実施することで、市内の防火シャッター及び小荷物専用昇降機に係る既存不適格事項は対応済みとなる。						
今後は、浩養小学校の昇降機に係る既存不適格事項について対応を検討する。						

45	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	教育総務課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		学校施設の整備				
事業名		学校施設の修繕・工事及び安全点検の充実			開始年度	平成19年度
事業内容		小中学校施設の維持管理に係る修繕及び工事について、緊急性や優先度を考慮の上、迅速に対応する。 また、施設等の安全点検を行い、安全性を確認するとともに、危険箇所については修繕等を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
小学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検の実施		7校		7校		A
中学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検の実施		3校		3校		
(達成度)						
学校施設等に係る修繕・工事については、施工内容を精査し緊急性や優先度を考慮の上、実施した。 また、施設の安全点検については、特定建築物定期調査等を実施し、調査・点検時における指摘事項により、緊急性や優先度を考慮の上、対応した。 また、各学校が実施する遊具の安全総合点検に同行し、各点検項目について確認した。						
(課題・改善点)						
建築後40年を超える校舎が半数を占めることから、予防・維持修繕に努める。 今後も点検結果及び学校要望等による危険箇所の修繕・工事について、優先度を考慮の上、予算要求を行うとともに、危険箇所が発見された場合は、児童生徒の安全確保のため、早急に対応する。 さらに、公共施設等総合管理計画の見直しに合わせて、富里市校舎等改修改築環境改善計画について、関係課と協議をしながら見直しを検討していく。						

46	分 類	1 学校教育の充実	基本目標	1・2	所 管	教育総務課
重点項目		(4) 安全・安心な教育環境の整備				
		学校施設の整備				
事業名		富里南中学校屋内運動場屋根改修工事の実施			開始年度	令和3年度
事業内容		富里南中学校の屋内運動場は、屋根防水シートの経年劣化による雨漏りが発生している。雨漏りによりアリーナの照明不点や放送室の天井腐食、放送設備の故障等が発生しており、漏電による火災や施設の劣化等が懸念されることから、生徒の安全と緊急避難所機能確保のため、屋根改修工事を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
富里南中学校屋内運動場屋根改修工事の実施		100%		100%		A
(達成度)						
令和3年度繰越事業として、令和4年4月入札の結果、5月に契約し、令和4年9月末に工事を完了した。						
工期内に屋上防水、放送室天井・床、アリーナ照明、堅樋等の改修工事が完了し、生徒・教職員等の安全確保及び避難所としての機能維持が図られた。						
(課題・改善点)						
今回の工事は緊急性がある屋根改修を優先し、外壁改修は実施しなかったが、足場を設置して外壁の経年劣化した状態を近くで確認できた。						
今後は、外壁改修についても検討をしていく。						

47	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
		いつまでも学べる環境整備				
事業名		学びを通じた人づくり			開始年度	平成18年度
事業内容		学んだことを地域のために自らの力を発揮、生かして地域に貢献し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。 また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえるようボランティア講師としての登録を促し、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介し、社会活動への参画を通じて、連携・協働のまちづくりの応援をする。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
創年セミナーの開催回数		16回（年）		7回		B
創年セミナー受講生の満足度		80%		60%		
(達成 度)						
参加率は、毎回90%以上となり受講者の受講意欲が高いことがわかる。						
(課題・改善点)						
新規登録者がいないため受講者の高齢化が進み、地域に貢献できる人材の育成に繋がらないことが大きな課題である。						
また、アシスト事業登録指導者の新規登録に繋がらないため呼びかけを行い、事業を推進していく必要がある。						

48	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
		いつまでも学べる環境整備				
事業名		「とみっこ大学」の実施と歴史・文化学習			開始年度	平成29年度
事業内容		様々な創作活動、理科・科学実験、環境学習など子どもの学ぶ力、生きる力を育む体験学習を中心とした「とみっこ大学」を実施する。 また、小学5年生以上を対象に岩崎久彌氏や岩崎家にゆかりのある旧岩城邸庭園などの東京都内にある施設を訪れ、岩崎家が社会貢献を行ってきたことなどを学習する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
とみっこ大学参加児童の満足度		80%		89 %		A
ふるさと富里再発見参加児童の満足度		80%		100%		
(達成 度)						
とみっこ大学は計画した11講座延べ14日間全て実施できた。アンケートから良かったと評価した参加児童は平均で89%、保護者は94%が評価している。ふるさと富里再発見は、岩崎久彌氏や末廣農場・別邸の学習、末廣別邸公園でのボランティアガイド体験、体験発表を内容とした活動を6回実施した。参加した児童4名全員が参加して良かったとアンケート調査で回答している。						
(課題・改善点)						
とみっこ大学、ふるさと富里再発見事業ともに、新型コロナウイルス感染症関連の制限は緩和されているが、今後も安心・安全の配慮は必要である。また、参加者のニーズに応じたプログラムの構成と実施が望ましい。そのためにも講師の確保や活動場所等の調整が課題である。						

49	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進				
		学びの成果を活かす環境づくり				
事業名		学びを通したまちづくり			開始年度	平成18年度
事業内容		学んだことを地域のために自らの力を発揮、生かして地域に貢献し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。 また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえるようボランティア講師としての登録を促し、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介し、社会活動への参画を通じて、連携・協働のまちづくりの応援をする。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
登録講師の派遣回数		5回		2回		B
講義受講者の満足度		80%		90%		
(達成度)						
アシスト事業登録者研修会について、例年、登録者のみに研修会を行っていたが、講師の新規登録に繋げるためにも市民活動団体やボランティア登録団体、市民一般に広く研修会の周知を行った。 アシスト事業登録者以外で10名の研修会の申込みがあった。 また、創年セミナー受講生からも研修会申込みがあり、人材育成に繋がった。						
(課題・改善点)						
アシスト事業登録指導者の活用については、庁内他課が所管する市民協働事業と連携し、指導者活動を更に周知するとともに新規登録の呼びかけを行い、事業を推進していく必要がある。 また、登録者の高齢化が進み、後継者等の育成に繋がらないことが大きな課題である。						

50	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		家庭教育の場の提供				
事業名		家庭教育の充実			開始年度	昭和39年度
事業内容		子育てに関する学習機会と仲間づくりの場となる家庭教育学級を、各市立幼稚園及び小・中学校に開設する。併せて講演会や子育て学習会を開催し、子育てに関する学びの場を提供する。 また、子どもたちの生活リズムの維持と向上を図るため「早寝・早起き・朝ごはん」運動の周知を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
家庭教育学級での学習会開催数		36回		53 回		A
講演会参加者の満足度		80%		100%		
(達成度)						
コロナ禍で開催中止もあったが、合計53回の学習会が開催された。学習内容は体験的な活動や講話、給食の試食等であった。参加者からは概ね満足との評価を受けている。家庭教育に関する講演会は11月と2月に実施し、参加者の評価は非常によかった。 「早寝・早起き・朝ご飯」運動の啓発は、幼稚園80名、小学校105名、中学校72名、合計257名の保護者に「早寝・早起き・朝ごはん」全国協議会作成資料の配布を行い周知を図った。						
(課題・改善点)						
学習会の開催状況はコロナ禍前の8割程度に戻り、実施率は88%であった。今後も感染症予防策を講じながら、コロナ禍前の実施率に戻す。 また、学習会や講演会への参加者増のための手立てとして、周知対象者の拡大とマチコミメールを活用していく。「早寝・早起き・朝ご飯」運動の啓発は、年度初めの早い時期に啓発資料を配布できるようにすることが課題である。						

51	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		地域社会と家庭教育の連携				
事業名		放課後子ども教室の推進			開始年度	平成20年度
事業内容		少子化や核家族の進行、高度情報化などにより、子どもを取り巻く環境が変化している中で、子どもたちが放課後に、地域の大人や異学年との関わりの中で社会性や協調性などを身に付け、体験活動を通じて心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していく。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
放課後子ども教室開催日数		15回(3校)		60回（4校）		A
参加児童の満足度		80%		100%		
(達成 度)						
実施4校において各回の児童参加率は、95%以上であり、アンケートにおいても参加児童及び保護者からの事業内容等の満足度は、98%以上であった。参加応募数は富里小学校では、定員数を上回ったことから、児童及び保護者の関心が高いことがわかる。						
また、コミュニティ・スクールの導入により、より多くの幅広い層の地域住民や団体等の参画が得られ、地域全体で子ども達が健全に育つ環境づくりを行えた。						
(課題・改善点)						
参加児童が増えることにより、子ども達が安全・安心に過ごせるよう、より一層、安全管理の体制を整える。						
更なる人材確保に地域住民や学校関係者への情報提供を行うとともに、協力を呼びかけていく。						

52	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		地域社会と家庭教育の連携				
事業名		「とみっこ宣言」周知・定着			開始年度	平成28年度
事業内容		学校・家庭、地域がそれぞれの責任と役割を自覚し、富里市の未来を担う子どもたちの育成を図るための「とみっこ宣言」を広く周知し、定着させて、学校、家庭、地域がさらに連携して子育てに取り組めるように支援していく。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
家庭教育学級・講演会での周知回数		14回		10回		A
子育て学習会での周知回数		12回		12回		
(達成度)						
家庭教育学級学級長・主事会議及び家庭教育学級開級式でとみっこ宣言文を配布し、参加者に趣旨等について周知した。子育て学習会での周知は、幼稚園入園保護者、小学校・中学校入学児童保護者を対象に宣言文を配布し趣旨等を周知した。						
(課題・改善点)						
とみっこ宣言文の配布機会は昨年より増えたが、宣言文の説明機会は少なかった。そのため「とみっこ宣言」の認知度は高くない。そこで宣言文趣旨等の説明をする機会を家庭教育学級学習会や子育て学習会等に設け認知度を高めていく。また、とみっこ宣言に関わる「おもしろ」「協力」「挨拶」「郷土愛」等についての講話や体験的活動を主催事業で行うことで参加者の啓発に努め、宣言文の定着を図っていく。						

53	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの充実				
		国際化社会に対応する子どもへの支援				
事業名		「とみさとザ・ワールド・キッズ」＆「英語ふれあいDay」推進事業の実施			開始年度	平成17年度
事業内容		国際対話能力の涵養と、異文化に対する理解を深めることなどを目的として、平成17年度から「とみさとザ・ワールド・キッズ」を実施している。また、平成20年度から実施している「英語ふれあいDay」においては、日ごろの英語学習を発表する場を提供する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
「とみさとザ・ワールド・キッズ」実施小学校区		4小学校区		1小学校区		B
「英語ふれあいDay」関連行事 における参加者の満足度		85%		未実施		
(達成度)						
出場者は12組26名で、スピーチコンテストでは小学校2年生から中学2年生までの児童が参加し、日頃の英語学習の成果を発揮した。						
また、とみさとザ・ワールドキッズを実施した七栄小学校区では英語パフォーマンスを披露し、審査員及び観客から高い評価であり、参加者からも高い満足度であった。						
(課題・改善点)						
今後は、全ての小学校で英語体験活動を行えるよう、「放課後子ども教室」に取り入れ、より多くの子ども達に英語とふれあい親しみを感じられる機会を推進していく。						

54	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(3) 青少年の健全育成の推進				
		思いやりのある青少年の育成				
事業名		青少年相談員活動の推進			開始年度	昭和38年度
事業内容		体験活動を異学年と経験することを通じて、人間関係の形成や人を思いやる心を養うことを目的として、青少年相談員連絡協議会の主催事業を実施する。 また、それぞれの小学校区においても、学校、家庭、地域と連携して、キャンプやバザーなどの体験活動や防犯パトロールなどの青少年健全育成活動を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
連絡協議会主催事業参加者数		300人		未実施		B
事業実施小学校区数		7地区		6地区		
(達成度)						
8月に市民活動支援補助金対象事業である「とみさと子どもフェスタ」に協力し、250名ほどの来場者に対応した。 主催事業として、綱引きドッチボール大会を開催するため相談員向けに審判講習会を行い準備を進めていたが、感染症拡大防止のため大会が中止となった。 しかしながら、各小学校区で行う事業については、感染防止対策を徹底し、6地区が事業を実施することができた。						
(課題・改善点)						
感染症拡大防止のため、主催事業及び各小学校区での活動にも制限があり、活動を多く行うことが困難であった。 令和5年度は制限が緩和される見込みであることから、コロナ禍以前に行っていた事業を徐々に再開していく予定である。 数年振りに行う事業も多いことから、円滑に実施することができるよう、相談員との連携を密に行う。						

55	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		公民館事業の充実				
事業名		サービスの適正化			開始年度	平成30年度
事業内容		貸館中心であった公民館から、公民館主催事業を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
事業実施回数		4回		1回		A
事業参加者の満足度		80%		100%		
(達成度)						
令和3年度に引き続き、県推進事業である「障害者の生涯を通じた学びの支援事業」を12月に1度、富里福葉苑生10名に参加いただき実施した。3月に開催を予定していた清郷会の担当者も見学していただいたが、協議の結果、令和5年度に実施することとした。						
(課題・改善点)						
令和3年度、令和4年度は絵手紙教室を実施したが、今後はパラスポーツであるボッチャなどを取り入れていきたい。						

56	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目	(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実					
	図書館資料の整備					
事業名	図書館資料等の充実				開始年度	平成14年度
事業内容	資料及び情報の収集・提供に当たっては、市民の学習活動を適切に支援するため要望に応えられるよう努めていくとともに図書館機能に生涯学習機能を付した上で、それぞれの機能が活かされるよう事業の実施に努める。					
指 標	令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価	
利用者数	240,000人		179,818人		B	
貸出冊数	200,000冊		161,445冊			
(達成 度)						
目標値には至らなかったが、選別した購入をすることで、内容の充実に努めた。 また、複合施設として、各種事業に取り組むことができた。						
(課題・改善点)						
主に蔵書の鮮度を保つことで利用の促進が図られる側面もあるので、資料費の確保が必要である。資料費の確保に務めるとともに、今後もリクエストなどに応えられるよう選別した資料購入に努める。 また、複合施設としての機能を活かし利用の活性化にも繋げていきたい。						

57	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館事業の充実				
事業名		子ども向け事業の充実			開始年度	平成14年度
事業内容		読書週間は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができないものであり、早期での読書習慣と図書館の利用習慣に繋がるよう事業を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
ブックトリップ事業の達成割合		30%		45.6%		A
(達成度)						
令和3年度実績に対し、全体で1.4%増加した。小学校においては、2.5%増、中学校についても1.1%増となった。						
(課題・改善点)						
小学生の参加数に比べると中学生の参加が少ないことから、参加しやすい方法を工夫しながら実施に努める。						

58	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		（４）生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館事業の充実				
事業名		親子読書支援の充実			開始年度	令和4年度
事業内容		親子が本と触れ合える場としての役割を強化する。親子が様々な本と触れ合う機会をサポートし本に親しみ、親子の読書活動と図書館利用を推進する。				
指 標		令和４年度目標		令和４年度実績（実施率）		総合評価
児童書の貸出冊数		45,000冊		35,160冊		A
支援数		350人		3,361人		
(達成度)						
親子読書支援コンシェルジュによる親子へのサポートは、順調に実施できた。今後も定期的に講座なども実施し、内容の充実を図っていく。支援数は大幅に増加したものの、児童書の貸出冊数は、目標に達しなかった。						
(課題・改善点)						
より多くの親子が利用していただけるように事業の周知に努め、施設や資料の利用促進に繋げていきたい。						

59	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		図書館事業の充実				
事業名		学校図書室等への支援			開始年度	平成14年度
事業内容		図書館が所蔵する団体貸出用資料を各小中学校、幼稚園、こども園に配送し貸出を行う。身近に本とふれあえる機会の提供と読書活動を支援する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
貸出団体数		延べ170件		延べ152件		B
貸出冊数		8,400冊		7,583冊		
(達成 度)						
定期便については、順調に貸出を行うことができたが、各学校からの申し込みにより貸し出す、調べ学習用の利用が少なかったこともあり目標値の達成には至らなかった。						
(課題・改善点)						
団体貸出用資料については、学校等の要望も参考に、積極的な図書資料の整備に努めていく他、利用についての周知に努め、利用の促進に繋げていく。						

60	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	生涯学習課
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		社会教育施設の整備				
事業名		公民館施設の適正な維持管理			開始年度	平成24年度
事業内容		空調設備をはじめ、老朽化した設備の修繕を計画的に行い、安定した公民館運営を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
工事件数		3 件		6 件		B
設備不備による休館日数		0 日		0 日		
(達成 度)						
公民館棟及び講堂棟の空調設備、消防設備の修繕を実施した。 内訳：空調2件、トイレ1件、消防設備1件、窯室2件						
(課題・改善点)						
近年は空調機の故障が続いているため、公民館棟の空調機更新工事を実施する。 今後、講堂棟についても更新を検討していく。 また、照明器具についても安定器の故障が多いため更新を計画する。						

61	分 類	2 生涯学習の推進	基本目標	1・3	所 管	図書館
重点項目		(4) 生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備充実				
		社会教育施設の整備				
事業名		図書館施設の適正な維持管理			開始年度	平成15年度
事業内容		点検により不適格となっている空調機等の修繕及び更新工事を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
修繕件数		5件		14件		A
更新工事		2件		2件		
(達成度)						
修繕については、当初予定していた箇所に加え、早急な対応が求められる案件があったことにより全体で11件の修繕を実施した。工事については、当初計画のとおり実施できた。						
(課題・改善点)						
修繕や更新が必要な設備が多数発生している。利用者が安心安全に利用できるよう、計画的に整備、更新を進めていく。						

62	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化の創造					
事業名	文化祭等の文化活動発表の場の充実				開始年度	昭和42年度
事業内容	自立した活動を行う文化団体や個人に対し、活動成果発表の場として市文化祭等を開催する。					
指 標	令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価	
来場者数	延べ1,500人		延べ2,000人程度		A	
(達成 度)						
11月にとみちゃん秋まつりの一環として、富里市文化祭を開催した。他の祭りと合同で開催することで、新規の団体も参加することができ、前年度より多くの方に見ていただいた。						
(課題・改善点)						
合同開催により、参加団体の駐車場確保が困難であった。 前年度と同様、11月3日（文化の日）開催を含め、参加団体が活動の発表の場として不都合なく活用できるよう努める。						

63	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化の創造				
事業名		芸術作品鑑賞機会の創出			開始年度	平成20年度
事業内容		富里市内及び近隣市町に在住する芸術家の作品を展示し、これらの芸術家の存在を広く市民に伝えとともに、質の高い芸術作品の鑑賞機会を創出する。 また、市立図書館の一部をギャラリーとして活用し、良質な芸術作品の鑑賞機会を身近に提供する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
来場者数		延べ2,000人		延べ4,585人		A
(達成度)						
10月に富里市立図書館市民ギャラリーにて、版画作品の展示会を開催し、延べ4,585人に来館いただき、多くの市民が質の高い芸術作品に触れる機会となった。 また、作家による版画のデモンストレーションを開催することで、普段知ることのできない制作過程を学ぶ機会を創出した。						
(課題・改善点)						
市民ギャラリーとして周知がまだされていないため、令和5年度は外部広報誌等に掲載を図り、来場者を増やす。 また、芸術鑑賞事業を1回から4回に増やし、質の高い鑑賞機会を創出する。						

64	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保守				
事業名		無形民俗文化財継承事業への支援			開始年度	昭和55年度
事業内容		市指定文化財である「久能獅子舞」及び「中沢麦つき踊り」両保存会の継承活動事業に対し、経費の一部を補助して活動を支援する。 また、後継者の育成について保存会とともに検討する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
活動回数		久能獅子舞（年2回）、 中沢麦つき踊り（年1回）		久能獅子舞 未実施 中沢麦つき踊り 実施		B
(達成度)						
両団体共に、富里市の無形民俗文化財を継承するため、練習等を行っている。感染症拡大防止のため、中止となった回もあるが、継承活動としてはその目的を達成することができている。						
(課題・改善点)						
高齢化が進み、練習時間の確保に苦慮している。 若い世代への市指定文化財の継承活動の周知を行うと共に、後継者の育成について支援する。						

65	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保存・				
事業名		文化財の保護			開始年度	—
事業内容		富里市文化財保存活用地域計画に定めた文化資源の保存に関する措置を着実に実施し、歴史的価値の高い文化資源を後世に確実に伝える。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
地域計画の保存に関する措置の開始件数		6 件		5 件		A
(達成度)						
国指定・県指定に向け、候補となる「旧岩崎家末廣別邸」などの文化財の詳細調査を実施し、建物の修繕等を行った。 また、令和4年度は、学習支援として14回、市内外の学校及び一般団体に対し「旧岩崎家末廣別邸」の職員による解説を実施し、文化財の活用を図った。						
(課題・改善点)						
旧岩崎家末廣別邸については、国指定に向けた調査・修繕とともに、活用についても広く検討を進めていく。 また、文化財を活用した学習支援の実施について、各学校へ周知を図る。						

66	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保存				
事業名		埋蔵文化財の保護			開始年度	昭和49年度
事業内容		開発行為に伴って未発掘の可能性がある遺跡について、現状保存ができるように事業主と協議し、現状保存が困難な場合には発掘調査を実施して遺跡の記録保存に努める。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
文化財包蔵地確認件数		400件		472件		A
(達成度)						
新発見の遺跡や周知遺跡の範囲見直しを随時しながら、精度の高い埋蔵文化財包蔵地確認と迅速な対応を行っている。						
(課題・改善点)						
遺跡地図電子システムを活用しているが、遺跡についての情報が全て反映できていない。 変更のあった遺跡範囲や調査状況について電子システムに入力し、最新の情報を事業者伝えるよう努める。						

67	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の保存				
事業名		各種文化財の実態調査			開始年度	平成28年度
事業内容		富里市文化財保存活用地域計画を作成し、文化庁の認定を受けたことから、この中で定めた指定文化財とするための詳細調査や総合把握のための調査を実施し、その成果を台帳化や地理情報システムへのデータ登載を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
詳細調査及び総合的把握調査開始件数		2 件		1 件		A
(達成度)						
収蔵している4,490点分の護符（守札）の保存状態に合わせた修繕等を検討するために、詳細調査を実施し台帳化を進めた。						
(課題・改善点)						
市指定文化財として検討するために、今後も詳細調査と台帳化を実施し、令和5年度には文化財審議会に諮問できるように努める。						

68	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(1) 文化の振興				
		文化資源の活用				
事業名		郷土資料の展示			開始年度	令和2年度
事業内容		富里市郷土資料展示室の定期的な展示品の交換により、より多くの郷土資料に直接触れ合える機会を提供する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
展示入替え回数		8 回		8 回		B
(達 成 度)						
掛軸を2か月毎、刀剣を3か月毎に入替展示をするとともに、収蔵している文化財について紹介、市内外に富里の歴史を伝えるよう努めた。						
(課題・改善点)						
郷土資料展示室についてまだ市民に認知されていないため、市公式HPを活用し、展示の入れ替えの度に展示風景を更新し、富里市立図書館内で富里の歴史について学べることを周知する。						

69	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化資源の活用					
事業名	旧岩崎家末廣別邸の公開				開始年度	平成29年度
事業内容	国登録有形文化財である「旧岩崎家末廣別邸」を含む「旧岩崎久彌末廣農場別邸公園」を整備し、機能の拡充及び来園者の増加を図る。					
指 標	令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価	
来園者数	2,000人		18,332人		A	
(達成度)						
整備を着実に実施しているのに加え、観光・交流拠点施設「末廣農場」がオープンした結果、大幅に来場者数が増加している。 令和4年度は改修工事の様子を見学できる特別公開を実施した。						
(課題・改善点)						
建物内への立入見学を希望する来場者が多いが、建物の整備が完了していないため数回のみしか実施していない。 安全が確保された状態で建物内への公開を順次開始できるよう、今後も建物の整備を進める必要がある。						

70	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(1) 文化の振興					
	文化資源の活用					
事業名	文化財を活用した学習支援				開始年度	—
事業内容	旧岩崎家末廣別邸での学習や市内で出土した様々な埋蔵文化財、寄贈された民具、収集した写真資料を活用した郷土の歴史教育支援を行う。					
指 標	令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価	
歴史教育支援回数	5 回		16回		A	
(達 成 度)						
新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和されたことにより、依頼が増えてきた。 別邸に初めて視覚障害者の団体の見学があった。						
(課題・改善点)						
誰でも見学を楽しめるようにバリアフリー化が必須事項である。 今後は、整備を継続的に行い、来場者の特徴に合わせた解説が必要である。						

71	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		生涯スポーツ体制の整備				
事業名		スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会等への参加			開始年度	昭和53年度
事業内容		スポーツ推進委員が研修会・講習会へ積極的に参加することにより、時代のニーズに即したニュースポーツの習得や適切な指導方法の研鑽を図る。また、市民からの要請に応じた指導やスポーツの普及に努める。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
研修会参加回数		5回		3回		A
ニュースポーツ体験の実施回数		4回・20人		4回・40人		
(達成度)						
各スポーツ推進委員が積極的に各種研修会等に参加し、知識や技能のスキルアップに努めた。スポーツの普及については、ニュースポーツであるボッチャを中心に開催し、目標値を上回る参加者を得ることができた。						
(課題・改善点)						
推進委員の高年齢化も進むことから、若年層の新たな委員の確保が必要である。「ニュースポーツ体験会」の開催にあたっては、市民がスポーツをする機会を増やすため、積極的に広報・PR活動を行う必要がある						

72	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		生涯スポーツ体制の整備				
事業名		総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成			開始年度	平成22年度
事業内容		総合型地域スポーツクラブの運営支援を行う。また、地域コミュニティの場として、定期的・継続的にスポーツ活動ができるよう、身近な公共スポーツ施設を活動拠点として提供する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
富里南桜クラブの会員数		40人		43人		A
富里南桜クラブの活動回数		40回		42回		
(達成 度)						
毎週木曜日を活動日とし、60歳～80歳代女性を中心に片足立ちや踏み台昇降等の健康体操を実施した。 会員数・活動回数ともに、目標値を達成し、また会員同士のコミュニティの場として提供することができた。						
(課題・改善点)						
今後、市公式ホームページや広報紙を通し、クラブの活動内容の紹介や会員募集等の支援を行う。						

73	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		生涯スポーツ体制の整備				
事業名		スポーツ・レクリエーション活動を中心とした生涯スポーツの普及			開始年度	昭和55年度
事業内容		水泳教室のほか、年齢や体力に応じた軽スポーツの楽しさや魅力を体験できるよう各種事業を開催し、いつでも、どこでも気軽にできるスポーツの普及に努める。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
水泳教室参加数		延べ50人		中止		C
(達成 度)						
新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。（学校授業での水泳実施なし）						
(課題・改善点)						
水泳を通して水に親しみながら、年齢や体力、技能に応じた健康維持や体力、競技力の向上を目的とした水泳教室の開催に努める。						

74	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		学校体育施設開放事業の促進				
事業名		学校体育施設効果的利用の促進			開始年度	昭和50年度
事業内容		各種スポーツ団体からの利用申請を調整し、学校体育施設を含めた体育施設の効率的な利用を促進する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
学校体育施設開放利用団体の登録数		延べ70団体		延べ75団体		A
学校体育施設の開放日数		300日		250日		
(達成 度)						
感染症対策を講じながらの利用であったが、曜日に限らず空きがない状態であり、施設利用促進の目標は概ね達成された。						
(課題・改善点)						
学校教育活動を優先しながら、教育施設の有効活用を念頭に置き、地域における「身近な運動、スポーツ施設」として、さらに多くの利用団体が活用できるよう効率的、効果的な利用を促進する。						

75	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		健康・体力づくりとスポーツ活動の促進				
事業名		とみさとスポーツ健康フェスタの充実			開始年度	昭和39年度
事業内容		市民の誰もが気軽に参加でき、健康と体力づくりに対する理解と関心を深め、積極的にスポーツを実践するきっかけづくりの場として「とみさとスポーツ健康フェスタ」を実施する。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
参加者数		延べ200人		延べ70名		B
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響などで直近3年の休止からの再開となった。依然としてコロナ禍にありつつも、withコロナで可能な種目で企画し、滞りなく開催できたことは、次回以降につながるものと思われる。						
(課題・改善点)						
引き続き、市民の健康と体力づくりのきっかけとなるようなイベントを開催できるよう努める。						

76	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		健康・体力づくりとスポーツ活動の促進				
事業名		スポーツ団体支援による活動の活性化			開始年度	-
事業内容		市広報紙及びホームページ等を活用し、市スポーツ協会主催の大会や教室への市民参加を促進させる。また、全国大会等に出場する選手等への奨励費の交付や市内のスポーツ団体及び個人の優れた功績などを広く市民に紹介して、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技人口の増加・技術の向上を図る。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
大会・教室の開催回数		50回		37回		B
全国大会等への出場者数		8件		5件		
(達成度)						
新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、大会や教室を開催する専門部が増え、以前のような活気が戻ってきている。 また、ハンドボールやバレーボールなど全国大会への出場があったことは、本市に明るい話題となった。						
(課題・改善点)						
市スポーツ協会競技専門部とは情報の共有を行いながら、各種大会、教室が開催できるよう努める。 また、市民が各種競技全国大会出場時においては、出場する選手へ奨励費を交付するとともに、優れた功績を広く市民に紹介し、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技力の向上を図っていく。						

77	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目		(2) スポーツの振興				
		スポーツ施設の整備				
事業名		オンラインによるスポーツ施設利用申請の開始			開始年度	令和4年度
事業内容		富里社会体育館や市営運動場をはじめ、市内公共スポーツ施設の利用申請方法にオンラインによる方法を導入し、運用を開始する。 また、各施設の利用予約、空き情報もリアルタイムで発信し、施設利用者は、いつでもどこでも情報を取得し、サービスを楽しむことができる。 システム導入にあたっては、誰もが操作しやすいと感じるシステムを構築し、利用の促進と周知を行う。				
指 標		令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価
オンライン申件数		1,800件		1,447件		B
オンライン申請割合(件数/全体)		70%		65%		
(達成度)						
10月1日より運用開始した。 本システムでは、いつでも利用申請が可能となり、利用者の負担軽減につながることから、システム運用開始後の利用件数は増加している。						
(課題・改善点)						
本システムを定着させ、さらに本システム利用者数の増加を図りスポーツ施設の利用拡大に努める。						

78	分 類	3 文化・スポーツの振興	基本目標	1・4	所 管	生涯学習課
重点項目	(2) スポーツの振興					
	スポーツ施設の整備					
事業名	社会体育施設の整備充実				開始年度	平成31年度
事業内容	社会体育施設を良好な状態で貸し出すことで、利用者の安全を確保する。また、施設の利用率を上げることで、明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく。					
指 標	令和4年度目標		令和4年度実績（実施率）		総合評価	
施設・設備の修繕・工事	10件		18件		A	
利用件数・人数	2,500件・66,000人		3,391件・66,805人			
(達成度)						
修繕・工事は予定通りに施工されている。利用にあたっては、感染症予防や熱中症予防のため、利用を中止している団体もあるが、問題なく利用できた。						
(課題・改善点)						
安全・安心にスポーツができる環境を提供し続けるためにも、類似施設の改修例を参考とし、再整備、機能向上を図る整備計画の策定に努める。						

富里市教育委員会の教育行政について（評価）

笹井 宏益（玉川大学）

1 全体をととしての評価

令和4年度の教育行政に対する評価については、コロナ禍による影響をどのようにとらえるかという点への考慮なくしては考えられない。コロナ禍は、教育行政当局や各学校などでの取組みを含め、すべての社会的活動の抜本的な見直しを迫ってきたが、それは、令和4年の秋以降、コロナ禍への対策が緩和されてきた状況の下でも大きく変わることはなかった。このたびの評価は、令和4年度における教育行政が、このような状況に直面していることを踏まえた上で、個々の施策や取組みに対する評価を行ったものである。

令和5年3月末時点における「とみさと教育プラン」に基づく諸活動の達成割合については、自己点検・評価結果の全体の傾向として、「順調に達成した（A評価）」、「概ね順調に達成した（B評価）」、「達成できなかったが一定の成果を得た（C評価）」の合計の割合（「達成できず成果が乏しかった」（D評価）を除いた肯定的な評価割合の合計）が、全78項目中71項目（91.0%）という高い数値を示しており、コロナ禍という特殊な状況の下であっても、前年を上回る大きな成果を上げたことは高く評価することができる。

富里市の教育行政の特徴として挙げられることは、従前から行われている取組みが着実に成果を蓄積してきており、併せて、一つの施策が他分野の施策と有機的に関連付けられて企画実施されていることである。上記の傾向は、一つの施策が他分野にも影響を及ぼし、そうした施策が多数あることで、様々な分野において相乗的に良い成果が生まれていることを示唆するものである。ただ、コロナ禍の影響で「人が集まる」ことを旨とする事業の縮小や中止が一部見受けられる。子供たちが学校に来ることが難しい状況の下で、こうした現状は止むを得ないものとするが、そうした中でも、コロナ禍の影響をできるだけ少なくしようとする関係者の創意工夫が見受けられることは、今後の発展につながるものとして大いに期待される。

また、個別の重点項目についても、学校関係者や教育委員会関係者による地道な努力の成果が着実に現れてきている。項目数が最も多い「学校教育の充実」に関して言えば、「順調に達成」又は「概ね順調に達成」が46項目中40項目という結果になっており、A評価又はB評価といった肯定的評価が87%になっており、これは、高い評価に値するものである。今後は、6項目（13.0%）を占めているC評価の項目の改善に向けて、一層の努力が求められるよう。

さらに「生涯学習の推進」に関しては、「順調に達成」又は「概ね順調に達成」が15項目中15項目、また「文化・スポーツの振興」に関しては、「順調に達成」又は「概ね順調」が、17項目中16項目に達しており、優れた成果を達成している。コロナ禍の影響を受けながらもこうした成果を生み出していることは、特筆に値するものである。

全体的に見て、富里市教育委員会による教育行政は、令和4年度において極めて充実した活動を展開しており、高い評価に価するものである。

2 個別の事項についての評価

(1) 学校教育の充実

学力の向上については、千葉県標準学力検査の結果を踏まえ、市全体として、語彙力や計算能力などの向上のための取組みを進めたり、研究指定による指導方法の改善研究を行ったり、また教務主任研修を実施するなどの取組みを進めていることは評価できる。ただ、語彙力や計算能力などの向上のための取組みについては、令和4年度実績が10%程度にとどまっていることから、今後は、取り組みやすい体制を逐次整えていくことが望まれる。

「富里市きょうざん塾」や『とみの国』検定など、かねてから基礎学力の向上に対して積極的に取り組んでいることは評価できるものの、コロナ禍の影響を受けて「富里市きょうざん塾」については中止となったことはやむを得ないものとする。来年度以降の充実を期待するものである。

外国語教育の充実に向けて、外国語指導補助員会議を実施したり、ALTが授業を参観し助言等を与えたり、「英会話の日推進事業」を実施したりしていることは、好ましいことである。しかしながら、JTEの会議の実施回数やALTの授業参観回数の令和4年度実施率が低くとどまっており、今後は、そうした状況の影響を分析しつつ、英語のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進を図っていく必要がある。

郷土を愛する心を養い地域に根ざした人材の育成については、教育課程全体をとおして「ふるさと学習」の推進や地域教材の配布と活用といった取組みが定着しており、極めて好ましい。令和4年度については、コロナ禍の影響もあり、「ふるさと巡検」は実施されなかったが、その参加希望者は目標を大きく上回っており、令和5年度の実施が期待される。

多岐にわたる特別支援教育の取組み（特別支援教育専門員巡回支援事業、ライフサポートファイルの活用、個別指導補助員、発達相談の実施など）については、それぞれ目標値を達成しており、所定の成果を収めていることは、評価できる。

「わくわく working！」や「ゆめ・仕事ぴったり体験（地域密着観察学習）」といった中学生の職場体験学習を中核とする「地域と一体となったキャリア教育」については、生徒たちの体験学習の充実に大きな貢献をしてきたものの、令和4年度は、コロナ禍の影響により事業所での学習（体験）ができなかった。その代替措置として、事業所の人を学校に招くなどの工夫をしたり、インターネットを活用した調べ学習をさせたりして、地域と一体となったキャリア教育を進めてきたことは、関係者の創意工夫や努力の成果として、高く評価できる。「学校と地域が一体となる」ことで、児童・生徒の成長・発達が期待されている現代において、こうした取組みは極めて重要であり、今後は、本来の体験学習事業として、さらに充実することが期待される。

長欠児童生徒の改善に関し、適応指導教室（ふれあいセンター）において不登校児の居場所づくりを行ったり学校復帰への取組みを進めたりする事業については、目標達成には至らなかったものの、行政側の懸命の努力が認められる。国は、長欠児童生徒の居場所づくりを肯定的に認める方向にあるが、今後の状況の推移を見守りつつ、適切な対応を期待するものである。また、いじめ等への対応に関して、家庭訪問や教育相談の件数は、目標を大きく上回る数値を示しており、いじめの実態調査の実施とともにこれらの取組みが一定の成果を上げていることは、高く評価できる。

情報モラル教育の推進については、「親子ケータイ・スマホ出前授業」が実施され、一定の成果を上げている。情報メディアの普及・進展は、想像を絶する速さで進んでおり、そうした状況の下で、子供たちのモラルや自分を守る意識を向上させることは極めて重要である。情報モラル教育のさらなる充実が期待される。

いわゆる中1ギャップをなくす取組みとして「ジョイント・スクール事業」が進められており、「学校が楽しい」と回答した児童生徒の割合は、目標値を大きく上回る実績を示しており、好ましい結果となっている。今後は、内容のさらなる充実を期待したい。

地場産品の学校給食への活用に関しては、その割合がまだまだ低い状態にあり、豊かな農産物に恵まれている富里の良さを積極的活用することが期待される。

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の創設については、着実に進展しており、好ましい。今後とも、地域の実情の応じつつ、協議会が充実した運営機能を果たすように努めていくことが望まれる。

（２）生涯学習の推進

とみっこ大学は、「ふるさと学習」や「夏休み体験教室」などの既存事業を集約して新たに開設されたものである。この事業は、ものづくりや体験学習を組み入れたユニークな教育プログラムであり、開設当初から高い支持を得ている事業であることからわかるように、生涯学習事業として高い評価に価する内容である。令和４年度は、コロナ禍で、いくつかのイベントやセミナーが未実施のままになってしまったが、やむを得ないものと考えられる。これらの事業は、参加した児童生徒への教育的な効果も高いと考えられるので、今後の継続・充実を期待するものである。

グローバル化対応の事業として、国際対話能力の涵養と異文化理解の促進を目的として、「とみさと・ザ・ワールド・キッズ」及び「英語ふれあい Day」が 10 年以上行われてきており、地域の特性を活かした教育事業として定着してきている。これらの事業は、参加した児童生徒への教育的な効果も高いと考えられるので、今後の継続・充実を期待するものである。

「読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を高め、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができない」という趣旨からブックトリップ事業を行っていることは、評価できる。その達成者の割合も、当初の目標を超え数値を得たことは好ましい状況である。引き続きその拡充を期待するものである。

また、図書館資料の充実や IT 化を進めるなど図書館行政を充実させていることも、意義深い。特に、読み聞かせボランティアなどの参加者数は、コロナ禍の下でも増えており、さらなる充実が期待される。

メディアをつうじて世界中の情報があふれている現在、大人も子供も、読書を生活の中に定着させ、さらに読書をつうじて人と対話の機会を持つことが大切である。図書館に対するニーズが多様化する中で、キメの細かい、かつ総合的な図書館行政の推進を図ることが期待される。

（３）文化・スポーツの振興

文化・スポーツの振興策は、ほとんどの場合、文化事業やスポーツ教室といった「○○

事業」という形態で進められてきており、コロナ禍の影響から逃れることができない。そうした中でも、コロナ禍の克服に向けて様々な取組みを進めてきたことは、高く評価できる。

文化資源の活用のうち、旧岩崎家末廣別邸の公開については、目標値を大きく上回る来館者があったことは特筆すべきことである。安全で有意義な見学ができるように、適切な整備を行なわれることを期待したい。

令和4年度から始まったスポーツ施設利用のオンライン化は、着実に進展しており、今後はその定着に向けて一層の努力を期待したい。